

- 二、出向地
- 三、航海中寄港中及現在船中ニ「ペスト」、「コレラ」、黄熱、痘瘡、猩紅熱又ハ該病疑似症ノ有無
- 三、航海中寄港中及現在船中ニ「ペスト」、「コレラ」、黄熱、痘瘡、猩紅熱ノ外病者ノ有無若アラハ其ノ病名
- 四、航海中寄港中及現在船中ニ死者ノ有無若アラハ其ノ病名
- 五、航海中寄港中「ペスト」、「コレラ」、黄熱、痘瘡、猩紅熱アリタル船及疑ハシキ船トノ交通ノ有無
- 六、港海中寄港中及現在船中ニ「ペスト」鼠又ハ斃鼠ノ有無
- 七、他港ニ於テ検査消毒停船ノ有無
- 右之通相違無之候也

年 月 日

船 長 某 印
船 醫 某 印

家畜傳染病豫防法

(大正十一年四月八日法律第二十九號)

第一條

本法ニ於テ家畜ト稱スル牛、馬、緬羊、山羊、豚、犬、鶏及鷺ヲ謂ヒ傳染病ト稱スルハ牛疫、炭疽、氣腫疽、鼻疽、假性皮疽、牛ノ傳染性肋膜炎、流行性驚口瘡、狂犬病、羊痘、豚虎列刺、豚疫、豚丹毒、牛ノ傳染性流産、馬緬羊山羊ノ疥癬、加奈陀馬痘及家禽虎列刺ヲ謂フ

畜類傳染病豫防上必要アルトキハ勅令ヲ以テ前項ノ家畜又ハ傳染病以外ノ畜類又ハ傳染性病ニ付本法ノ全部又ハ一部ヲ適用スルコト得

第二條

家畜カ傳染病ニ罹リ若ハ罹リタル疑アルトキ又ハ牛疫若ハ狂犬病ニ感染シタル虞アルトキハ所有者、保管者又ハ診斷若ハ檢案シタル

獸醫ハ直ニ家畜所在地ノ警察官吏又ハ家畜防疫委員ニ其ノ旨届出ツヘ
シ但シ家畜カ船車ニ搭載スルモノナルトキハ船長、鐵道係員又ハ軌道
係員ハ最初ニ寄港又ハ停留シタル地ノ警察官吏又ハ家畜防疫委員ニ届
出ツヘシ

第三條 前條ノ家畜ニ付テハ所有者若ハ保管者又ハ家畜ヲ搭載スル船車
ノ船長、鐵道係員若ハ軌道係員ハ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ指揮ニ
從ヒ直ニ家畜ノ隔離其ノ他傳染病豫防上必要ナル處置ヲ爲スヘシ
前項ノ家畜ハ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之
ヲ殺スコトヲ得ス但シ鷄及鷺ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四條 家畜カ牛疫ニ罹リ若ハ之ニ感染シタル虞アルトキ又ハ狂犬病ニ
罹リタルトキハ所有者又ハ保管者ハ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ指揮
ニ從ニ直コ之ヲ殺スヘシ但シ牛疫ニ感染シタル虞アル家畜ニシテ第七
條ノ規定ニ依リ免疫血清ノ注射ヲ行フモノハ此ノ限ニ在ラス

狂犬病ニ罹リタル犬ニ付所有者又ハ保管者緊急ノ必要アリト認ムルト
キハ前項ノ指揮ヲ待タスシテ之ヲ殺スコトヲ得

第五條 地方長官傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ炭疽、氣腫疽、
鼻疽、假性皮疽、牛ノ傳染性肋膜肺炎、流行性鷺口瘡、羊痘、豚虎列
刺、豚疫、豚丹毒、緬羊山羊ノ疥癬又ハ加奈陀馬痘ニ罹リタル家畜ニ
付所有者又ハ保管者ニ對シ之ヲ殺スコトヲ命スルコトヲ得牛疫ニ感染
シタル虞アル家畜ニシテ第七條ノ規定ニ依リ免疫血清ノ注射ヲ行ヒタ
ルモノニ付亦同シ

地方長官ハ前項ノ家畜ニ付所有者又ハ保管者知レサル等ノ爲前項ノ規
定ニ依ル命令ヲ爲スコト能ハサルトキハ警察官吏又ハ家畜防疫委員ヲ
シテ之ヲ殺サシムルコトヲ得

第六條 地方長官傳染病豫防上病性鑑定ノ必要アリト認ムルトキハ警察
官吏又ハ家畜防疫委員ヲシテ家畜ノ屍體ヲ剖檢セシメ又ハ剖檢ノ爲家

畜ヲ殺サシムルコトヲ得

第七條 地方長官傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ警察官吏又ハ家畜防疫委員ヲシテ家畜ニ付檢診、免疫血清若ハ豫防疫ノ注射又ハ藥浴

ヲ行ハシムルコトヲ得

警察官吏又ハ家畜防疫委員前項ノ場合ニ於テ助力ヲ求ムルトキハ所有者若ハ保管者又ハ家畜ヲ搭載スル船車ノ船長、鐵道係員若ハ軌道係員ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第八條 傳染病ニ罹リ若ハ罹リタル疑アリ又ハ牛疫ニ感染シタル虞アル家畜ノ屍體ハ所有者又ハ保管者ニ於テ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ指揮ニ從ヒ直ニ之ヲ燒却又ハ埋却スヘシ但シ鷄及鶩ノ屍體ニ付テハ指揮ヲ待タスシテ之ヲ燒却又ハ埋却スルコトヲ得

前項ノ規定ハ假性皮疽又ハ加奈陀馬痘ニ罹リ又ハ罹リタル疑アル家畜ノ屍體及牛ノ傳染性流產又ハ馬、綿羊、山羊ノ疥癬ニ罹リ又ハ罹リタル疑

アル家畜ノ斃屍體ニシテ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ指揮ニ從ヒ化製スルモノ並牛ノ傳染性流產又ハ馬、綿羊、山羊ノ疥癬ニ罹リ又ハ罹リタル疑アル家畜ノ殺屍體ニ之ヲ適用セス病性鑑定又ハ學術研究ノ爲地方長官ノ許可ヲ受ケタル家畜ノ屍體ニ付亦同シ

第九條 傳染病ノ病毒ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アル物品ハ所有者又ハ保管者ニ於テ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ指揮ニ從ヒ之ヲ燒却、埋却又ハ消毒スヘシ但シ家禽虎列刺ノ場合ニ於テハ指揮ヲ待タスシテ之ヲ燒却、埋却又ハ消毒スルコトヲ得

第十條 傳染病ニ罹リ若ハ罹リタル疑アリ若ハ牛疫ニ感染シタル虞アル家畜ノ屍體又ハ傳染病ノ病毒ニ汚染シ若ハ汚染シタル疑アル物品ヲ埋却シタル土地ハ之ヲ發掘スルコトヲ得ス但シ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 傳染病ニ罹リ若ハ罹リタル疑アリ又ハ牛疫ニ感染シタル虞アル

ル家畜ノ所在ノ畜舎、船車其ノ他ノ場所ハ其ノ所有者、管理人、船長、鐵道係員又ハ軌道係員ニ於テ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ指揮ニ從ヒ之ヲ消毒スヘシ但シ家禽虎列刺ノ場合ニ於テハ指揮ヲ待タスシテ之ヲ消毒スルコトヲ得

第十二條 傳染病ノ病毒ニ觸接シ又ハ觸接シタル疑アル者ハ直ニ消毒ヲ爲スヘシ

警察官吏又ハ家畜防疫委員必要アリト認ムルトキハ前項ノ消毒ニ付指揮ヲ爲スコトヲ得

第十三條 牛、馬、緬羊、山羊又ハ豚カ疾病ノ爲斃死シタルトキハ所有者又ハ保管者ハ直ニ家畜所在地ノ警察官吏又ハ家畜防疫委員ニ其ノ旨届出ツヘシ

第二條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十四條 第三條、第四條、第八條、第九條若ハ第十一條ノ規定ニ依ル

義務者又ハ第五條ニ規定スル處分ニ依ル義務者カ其ノ義務ニ屬スル事項ヲ行ハス又ハ行フコト能ハサルトキハ警察官吏又ハ家畜防疫委員之ヲ行フコトヲ得

前項又ハ第五條第二項ノ場合ニ於テハ其ノ費用ハ北海道地方費又ハ府縣費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ但シ北海道地方費又ハ府縣ハ第二十三條ノ規定ニ基キテ發スル勅令ノ定ムル所ニ依リ箇人ノ負擔ニ屬スル費用ヲ其ノ箇人ヨリ徵收スルコトヲ得

第十五條 警察官吏又ハ家畜防疫委員傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ畜舎、船車其ノ他家畜ノ所在ノ場所ニ臨檢スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ家畜防疫委員ハ其ノ證票ヲ携帯スヘシ

第十六條 地方長官傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ區域ヲ限リ一定種類ノ家畜ノ出入若ハ往來又ハ其ノ家畜ノ屍體若ハ傳染病ノ病毒傳播ノ虞アル物品ノ運搬ノ停止其ノ他必要ナル事項ヲ命スルコトヲ得

警察官吏又ハ家畜防疫委員傳染病豫防上緊急ノ必要アリト認ムルトキハ傳染病ニ罹リ若ハ罹リタル疑アリ又ハ牛疫ニ感染シタル虞アル家畜ノ所在ノ場所及其ノ隣接區域ニ對シ一定ノ期間交通ヲ遮斷スルコトヲ得

第十七條 地方長官狂犬病豫防上必要アリト認ムルトキハ警察官吏ヲシテ道路、公園、社寺境内、墓地其ノ他ノ場所ニ徘徊スル犬ヲ抑留セシムルコトヲ得

警察官吏前項ノ規定ニ依リ犬ヲ抑留シタルトキハ其ノ所有者又ハ保管者ニ其ノ旨通知シ之ヲ受領セシムヘシ所有者及保管者知レサルトキハ抑留ノ旨ヲ公示スヘシ

前項ノ規定ニ依ル公示後命令ノ定ムル期間内ニ犬ノ返還ノ請求ナキトキハ地方長官ハ其ノ犬ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十八條 地方長官傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ屠場若ハ化製

場ノ事業ノ停止又ハ家畜市場、家畜共進會若ハ競馬會ノ開設其ノ他家畜ヲ集合セシムル施設ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第十九條 農商務大臣傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ家畜並其ノ屍體及肉骨皮毛類其ノ他傳染病ノ病毒傳播ノ虞アル物品ノ輸入又ハ移入ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第二十條 家畜並其ノ屍體及肉骨皮毛類ハ傳染病豫防ノ爲施行スル檢疫ヲ受クルニ非サレハ之ヲ輸入又ハ移入スルコトヲ得ス

檢疫官吏傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ前項ニ規定スル物ノ外傳染病ノ病毒傳播ノ虞アル物ニ付檢疫ヲ行フコトヲ得

第二十一條 檢疫官吏傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ船舶ニ臨檢シ航海日誌其ノ他ノ書類ヲ檢閲スルコトヲ得

第二十二條 第二條乃至第九條、第十一條乃至第十四條及第十六條ノ規定ニ於テ警察官吏又ハ家畜防疫委員トアルハ輸入又ハ移入ニ付檢疫ヲ

施行スル場合ニ於テハ檢疫官吏トス

第二十三條 傳染病豫防ニ關スル費用ハ國、北海道地方費、府縣、市町

村又ハ箇人ノ負擔トス其ノ負擔區分ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ス

第二十四條 地方長官ハ左ノ區分ニ從ヒ家畜又ハ物品ノ所有者ニ對シ手

當金ヲ交付ス但シ勅令ノ定ムル最高金額ヲ超ユルコトヲ得ス

一 傳染病ニ罹リ第四條、第五條又ハ第十四條ノ規定ニ依リ殺シタル

家畜但シ犬及第七條ノ規定ニ依リ豫防疫ノ注射ヲ行ヒタル爲傳染

病ニ罹リタル家畜ヲ除ク 評價額ノ三分ノ一

二 第六條ノ規定ニ依リ殺シタル家畜 評價額ノ五分ノ三

三 牛疫ニ感染シタル虞アリ第四條、第五條又ハ第十四條ノ規定ニ依

リ殺シタル家畜、第七條ノ規定ニ依リ豫防疫ノ注射ヲ行ヒタル爲

傳染病ニ罹リ第四條、第五條又ハ第十四條ノ規定ニ依リ殺シタル

家畜及第七條ノ規定ニ依リ免疫血清若ハ豫防疫ノ注射又ハ藥浴ヲ

行ヒタル爲斃死シタル家畜

四 第九條ノ規定ニ依リ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ指揮ニ從ヒ燒却

又ハ燒却シタル物品及第十四條ノ規定ニ依リ警察官吏又ハ家畜防

疫委員カ埋却又ハ埋却シタル物品 評價額ノ二分ノ一

前項ノ規定ハ輸入又ハ移入ニ付檢疫ヲ施行スル場合ニ於ケル家畜及物

品ニ付テハ之ヲ適用セス

第一項ノ評價額ハ地方長官三人以上ノ評價人ヲ選定シテ發病前又ハ病

毒汚染前ノ價額ニ依リ之ヲ定メシム地方長官其ノ評價額ヲ不當ト認ム

ルトキハ更ニ他ノ三人以上ノ評價人ヲ選定シテ之ヲ定メシムルコトヲ

得

第二十五條

前條ノ手當金ハ所有者又ハ保管者左ノ各號ノ一ニ該當スル

場合ニ於テハ其ノ家畜又ハ物品ニ付之ヲ交付セス

一 第二條、第三條第一項、第四條第一項若ハ第九條又ハ第二十條第

- 一 項ノ規定ニ違反シタルトキ
- 二 第五條第一項ノ規定ニ依ル處分又ハ第十六條若ハ第十九條ノ規定ニ依ル命令若ハ處分ニ違反シタルトキ
- 三 第六條、第七條第一項又ハ第二十條第二項ノ規定ニ依ル職務ノ執行ヲ妨ケタルトキ

第二十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第二條ノ規定ニ違反シ届出ヲ爲ササル獸醫
 - 二 第三條、第四條第一項又ハ第二十條第一項ノ規定ニ違反シタル者
 - 三 第五條第一項ノ規定ニ依ル處分又ハ第十六條、第十八條若ハ第十九條ノ規定ニ依ル命令若ハ處分ニ違反シタル者
 - 四 第五條第二項、第六條、第七條第一項、第十四條第一項又ハ第二十條第二項ノ規定ニ依ル職務ノ執行ヲ妨ケタル者
- 第二十七條** 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第二條ノ規定ニ違反シ届出ヲ爲ササル所有者、保管者、船長、鐵道係員又ハ軌道係員
 - 二 第八條乃至第十一條ノ規定ニ違反シタル者
 - 三 第十二條第二項ノ規定ニ依ル指揮ニ従ハサル者
 - 四 正理ノ理由ナクシテ第十五條ノ規定ニ依ル臨檢又ハ第二十一條ノ規定ニ依ル臨檢若ハ檢閲ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ答辯ヲ爲シタル者
- 第二十八條** 第十三條ノ届出ヲ爲ササル者ハ科料ニ處ス
- 第二十九條** 航海中ノ船舶ニ在リテハ船長ハ第三條、第八條、第九條及第十一條ノ規定ニ拘ラス命令ノ定ムル所ニ依リ傳染病豫防上必要ナル處置ヲ爲スヘシ
- 第三十條** 第二十條ノ規定ハ宮内省又ハ國ノ管理ニ屬スル家畜其ノ他ノ物ニ之ヲ準用ス

前項ノ規定ハ軍用ノ家畜ニシテ軍衙ニ於テ檢疫ヲ行フモノニ之ヲ適用
セス

第三十一條 本法中船長ニ適用スヘキ規定ハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行
フ者アル場合ニ於テハ其ノ者ニ之ヲ適用ス

第三十二條 本法中地方長官トアルハ東京府ニ於テハ警視總監トス

本法中市町村トアルハ市制又ハ町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ準
スヘキモノトス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

獸疫豫防法及大正九年法律第三十號ハ之ヲ廢止ス

本法施行前ニ獸疫豫防法第四條、第四條ノ二、第五條又ハ第八條第一項
ノ場合ニ該當シタルモノニ對スル手當金ノ交付ニ付テハ仍從前ノ例ニ依
ル

家畜傳染病豫防法施行期日ノ件

(大正十二年一月十八日勅令第七號)

家畜傳染病豫防法ハ大正十二年一月二十日ヨリ之ヲ施行ス

家畜傳染病豫防法ニ依リ交付スル手

當金ノ最高金額ノ件

(大正十二年一月十八日勅令第八號)

家畜傳染病豫防法第二十四條ノ規定ニ依リ手當金ノ最高金額左ノ通定ム

一 家畜傳染病豫防法第二十四條第一項第一號ノ場合

牛、馬 一頭ニ付 貳百五拾圓

緬羊、山羊、豚 同 拾參圓

二 同第二號ノ場合

牛、馬 一頭ニ付 四百五拾圓

緬羊、山羊、豚 同 貳拾四圓

犬 同 拾貳圓

鶏、鶩 一羽ニ付 壹圓五拾錢

三 同第三號ノ場合

牛、馬 一頭ニ付 六百圓

緬羊、山羊、豚 同 參拾貳圓

犬 同 拾六圓

鶏、鶩 一羽ニ付 貳圓

四 同第四號ノ場合

總額 參拾圓

附 則 費用ハ市町村ニ負擔ス

本令ハ家畜傳染病豫防法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

家畜傳染病及畜牛結核病豫防ニ關ス

ル費用負擔區分ノ件

(大正十二年一月十八日勅令第九號)

家畜傳染病豫防法第二十三條及畜牛結核病豫防法第十六條ノ規定ニ依リ

家畜傳染病及畜牛結核病豫防ニ關スル費用負擔區分左ノ通定ム

第一 左ニ掲クル費用ハ國ノ負擔トス

一 市町村吏員タル家畜防疫委員以外ノ家畜防疫委員ノ旅費

- 二 傳染病豫防ノ爲臨時傭入レタル獸醫ノ手當及旅費
- 三 評價人ノ手當及旅費
- 四 家畜傳染病豫防法第二十四條第一項及畜牛結核病豫防法第十三條第一項ノ規定ニ依ル手當金
- 五 牛疫免疫血清ノ購入及配送並「ツベルクリン」ノ製造及配送ニ要スル費用
- 六 第四ニ掲クルモノヲ除クノ外傳染病及結核病ノ豫防ニ要スル消毒藥品費
- 七 第三ニ掲クルモノヲ除クノ外家畜傳染病豫防法第二十條ノ檢疫及畜牛結核病豫防法第七條ノ規定ニ依ル検査ニ要スル費用
- 第二 左ニ掲クル費用ハ市町村ノ負擔トス
 - 一 警察官吏又ハ家畜防疫委員カ傳染病豫防ノ爲傭入レタル傭人ノ費用

- 二 屍體又ハ物品ヲ埋却シタル土地ノ標示費
- 第三 左ニ掲クル費用ハ所有者、管理人、管理者又ハ保管者ノ負擔トス
 - 一 家畜ノ牽付、送致、隔離、殺及家畜傳染病豫防法第三條第一項ノ處置ニ要スル費用
 - 二 檢疫、検査、隔離又ハ繋留中ニ要スル飼養管理費
 - 三 抑留シタル犬ヲ返還スル場合ニ於テ其ノ犬ノ抑留中ニ要シタル飼養管理費及返還ニ要スル費用
 - 四 家畜傳染病豫防法第九條又ハ第十一條ノ規定ニ依リ指揮ヲ待タスシテ消毒ヲ行ヒタル場合ニ要シタル費用
 - 五 屍體及物品ノ焼却又ハ埋却ニ要スル費用
 - 第四 屠場、化製場、家畜市場及之ニ附屬スル物品ノ消毒ニ要スル費用
 - ハ場主又ハ開設者ノ負擔トス
 - 第五 前各項ニ掲クルモノヲ除クノ外家畜傳染病又ハ畜牛結核病豫防ニ

關スル費用ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス

附 則

本令ハ家畜傳染病豫防法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十四年勅令第三百三十九號ハ之ヲ廢止ス

家畜傳染病豫防法施行規則

(大正十二年一月十九日農商務省令第一號)

家畜傳染病豫防法施行規則左ノ通定ム

第一條

警察官吏又ハ家畜防疫委員家畜傳染病ノ發生又ハ發生ノ疑アルコトヲ知リタルトキハ其ノ旨地方長官ニ報告シ且市町村長ニ通報スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ市町村長ハ其ノ旨部内ニ公示スヘシ

第二條

傳染病發生シ又ハ終熄シタルトキハ地方長官ハ其ノ旨管内ニ告示シ且農商務大臣及隣接府縣ノ地方長官ニ報告スヘシ

牛疫若ハ流行性驚口瘡發生シタルトキ又ハ傳染病蔓延ノ兆アリト認ムルトキハ地方長官ハ農商務大臣並隣接府縣及家畜集散上密接ノ關係ア

ル道府縣ノ地方長官ニ急報スヘシ
家畜傳染病豫防法ノ全部又ハ一部ノ適用ヲ必要ト認ムル傳染性病發生
シタルトキハ地方長官ハ其ノ旨農商務大臣ニ急報スヘシ

第三條 假性皮疽、牛ノ傳染性流産、馬、山羊、山羊ノ疥癬又ハ加奈陀馬痘
ニ罹リ又ハ罹リタル疑アル家畜及犬以外ノ家畜ニシテ狂犬病ニ感染シ
タル虞アルモノニ限リ警察官吏又ハ家畜防疫委員ニ於テ隔離ノ必要ナ
シト認メタル場合ニ於テハ隔離以外ノ處置ニ止ムルコトヲ得

第四條 地方長官家畜傳染病豫防法第七條ノ規定ニ依リ家畜ニ付檢診、
免疫血清若ハ豫防疫ノ注射又ハ藥浴ヲ行ハシメムトスルトキハ家畜ノ
種類、區域及日時ヲ告示スヘシ但シ緊急ノ必要アルトキハ此ノ限ニ在
ラス

第五條 傳染病ニ罹リ若ハ罹リタル疑アリ又ハ牛疫ニ感染シタル虞アル
家畜ノ屍體又ハ病毒ニ汚染シ若ハ汚染シタル疑アル物品ヲ運搬セムト

スルトキハ牛疫、氣腫痘、牛ノ傳染性肋膜肺炎、流行性驚口瘡又ハ牛
ノ傳染性流産ノ場合ニ在リテハ牛、鼻疽、假性皮疽又ハ加奈陀馬痘ノ
場合ニ在リテハ馬、炭疽ノ場合ニ在リテハ牛又ハ馬ヲ用キルコトヲ得
ス

第六條 前條ノ屍體又ハ物品ヲ埋却スル土坑ハ屍體又ハ物品ヲ投入スル
モ尙地表迄四尺以上ノ餘地ヲ有スルモノタルコトヲ要シ屍體又ハ物品
ヲ投入シタル後厚ク石灰ヲ撒布シ土ヲ以テ填塞スヘシ

第七條 燒却又ハ埋却スヘキ屍體ハ警察官吏又ハ家畜防疫委員ノ許可ヲ
受クルニ非サレハ之ヲ截切スルコトヲ得ス

第八條 第五條ノ屍體又ハ物品ノ燒却又ハ埋却ハ人家、飲料水、河流又
ハ道路ニ接近セサル場所ニ於テ之ヲ爲スヘシ
前項ノ埋却ヲ爲シタル場所ハ之ヲ標示スヘシ

第九條 家畜傳染病豫防法ノ規定ニ依ル消毒ノ方法ハ別ニ之ヲ定ム

第十條 地方長官家畜傳染病豫防法第十六條第一項又ハ同法第十八條ノ規定ニ依ル停止ヲ命シタルトキ又ハ之ヲ解除シタルトキハ其ノ旨管内ニ告示シ且農商務大臣並隣接府縣及家畜集散上密接ノ關係アル道府廳ノ地方長官ニ報告スヘシ

第十一條 家畜傳染病豫防法第十七條第二項ノ規定ニ依ル公示ニハ犬ノ種類、性、年齡、毛色及特徴、之ヲ捕ヘタル場所及日時並其ノ抑留ノ場所ヲ記載スヘシ

家畜傳染病豫防法第十七條第三項ノ期間ハ三日トス

第十二條 地方長官ハ狂犬病流行ノ際危險アリト認ムル區域ニ於テハ所有者又ハ保管者ヲシテ犬ヲ繫留セシムヘシ口網ヲ附シテ牽行スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 航海中家畜カ傳染病ニ罹リ若ハ罹リタル疑アリ又ハ牛疫若ハ狂犬病ニ感染シタル虞アルトキハ船長ハ其ノ家畜ヲ隔離シ病毒ニ汚染

シ又ハ汚染シタル疑アル場所及物品ハ之ヲ消毒スヘシ
前項ノ家畜ニシテ斃死シタルトキハ其ノ屍體ハ消毒液ヲ浸シタル藎又ハ菰等ヲ以テ全體ヲ包裹シ病毒ノ散蔓ヲ防クヘシ但シ領海外ニ於テハ之ヲ投棄スルコトヲ得

第十四條 家畜防疫委員ハ地方長官其ノ所屬ノ官吏、吏員若ハ市町村吏員又ハ獸醫ノ中ヨリ之ヲ命スヘシ評價人ハ地方長官其ノ所屬ノ官吏、吏員又ハ市町村吏員及畜產業ニ經驗アル者ノ中ヨリ之ヲ選定スヘシ

第十五條 家畜傳染病豫防法第十五條ノ證票ハ別記様式ニ依ル

第十六條 本則中地方長官トアルハ東京府ニ於テハ警視總監トス

本則中市町村長トアルハ市制又ハ町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノトス

附 則

本則ハ家畜傳染病豫防法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

證明樣式
(別記)

明治三十年農商務省令第一號ハ之ヲ廢止ス

三寸

第 號 大正 年 月 日 交付

家畜防疫委員證票

應府
縣印

氏 名

面 表
分 五 寸 一

面 裏

家畜傳染病豫防法第十五條 警察官吏又ハ家畜防疫委員ハ傳染病豫防上必要アリト認ムルトキハ畜舎、船車其ノ他家畜所在ノ場所ニ臨檢スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ家畜防疫委員ハ其ノ證票ヲ携帶スヘシ

家畜傳染病豫防法第二十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ

三百圓以下ノ罰金ニ處ス

四 正當ノ理由ナクシテ第十五條ノ規定ニ依ル臨檢若ハ第二十一條ノ規定ニ依ル臨檢若ハ檢閱ヲ拒ミ妨ケ若ハ忌避シ又ハ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ答辯ヲ爲シタル者

家畜傳染病豫防法第十五條

家畜傳染病檢疫規則

(大正十二年一月十九日農省務省令第二號)

家畜傳染病檢疫規則左ノ通定ム

第一條 家畜傳染病豫防法第二十條ノ檢疫ハ北海道函館港、大阪府大阪港、神奈川縣橫濱港、兵庫縣神戸港、長崎縣長崎港、同縣嚴原港、福井縣敦賀港、山口縣下關港、福岡縣門司港及鹿兒島縣鹿兒島港ニ於テ之ヲ行フ但シ當分ノ内鹿兒島港ニ在リテハ家畜及其ノ屍體並緬羊毛、駱駝毛、アルバカ毛及カシミヤ毛以外ノ獸毛ノ檢疫、函館港、長崎港、嚴原港、下關港及門司港ニ在リテハ緬羊毛、駱駝毛、アルバカ毛及カシミヤ毛以外ノ獸毛ノ檢疫ハ之ヲ行ハス

第二條 農商務大臣檢疫施行上必要アリト認ムルトキハ檢疫ヲ受クヘキ

物ノ種類ヲ限リ其ノ檢疫ヲ受クヘキ海港ヲ指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ少クトモ十日以前ニ其ノ旨ヲ告示ス

第三條 外國又ハ家畜傳染病豫防法ヲ施行セサル地方ヨリ入港シタル船舶ニシテ傳染病ニ罹リ、罹リタル疑アリ若ハ牛疫ニ感染シタル虞アル家畜又ハ其ノ屍體ヲ搭載スルモノハ其ノ船舶内ニ於ケル檢疫及消毒ヲ終ル迄檢疫信號ヲ掲クヘシ

前項ノ信號ハ晝間ハ前檣頭ニ第一號樣式ノ旗ヲ掲ケ夜間ハ同所ニ紅燈一箇其ノ下ニ白燈二箇ヲ上下ニ連掲スヘシ

第四條 檢疫官吏ハ檢疫ヲ受クヘキ物ヲ搭載シタル船舶ニ臨檢シ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニ尋問シ第二號樣式ノ調書ヲ作成スヘシ

第五條 檢疫官吏ハ船舶ニ於テ家畜ノ檢診若ハ家畜ノ屍體ノ檢案又ハ肉骨皮毛類ノ檢査ヲ行ヒ左ノ處分ヲ爲スヘシ

一 家畜傳染病豫防法第四條及第五條ノ家畜ニシテ殺スコトヲ必要ト

スルモ之ヲ殺場ニ送致セシムルコト
 二 前號以外ノ家畜ハ直ニ之ヲ繫留場ニ送致セシムルコト但シ朝鮮總督府ノ發給シタル檢疫證明書ヲ有スル畜牛ニシテ全群健康ト認ムルモノ並犬及支那、西比利亞以外ノ地ヨリ輸入若ハ移入スル鷄、鶩ニシテ檢疫官吏ニ於テ繫留ノ必要ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

三 家畜ノ屍體ハ燒却場ニ送致セシムルコト

四 肉骨皮毛類ハ消毒場ニ送致セシムルコト但シ輸出地ニ於ケル日本官憲ノ發給シタル屠殺前ノ健康證明書及屠肉検査ノ證明ヲ有スル生肉及移出地ニ於ケル屠肉検査ノ證明ヲ有スル生肉其ノ他檢疫官吏ニ於テ消毒ノ必要ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六條 前條第二號ノ規定ニ依リ繫留場ニ送致セシメタル家畜ノ繫留期間左ノ如シ

一 牛、緬羊、山羊、十五日但シ支那、西比利亞、朝鮮ヨリ輸入又ハ移入スルモノニシテ檢疫所ニ隣接セル指定屠場ニ於テ屠殺スルモノ及支那、西比利亞、朝鮮以外ノ地ヨリ輸入又ハ移入スルモノハ七日迄短縮スルコトヲ得

二 馬 十日但シ支那、西比利亞、朝鮮以外ノ地ヨリ輸入又ハ移入スルモノハ五日迄短縮スルコトヲ得

三 豚 十日但指定屠場ニ於テ屠殺スルモノハ七日迄短縮スルコトヲ得

四 鷄、鶩 二日

傳染病ニ罹リタル家畜ハ其ノ快復後二十日間、狂犬病ニ感染シタル虞アル家畜ハ九十日間、狂犬病ニ感染シタルア虞ル家畜ニシテ檢疫所ニ於テ豫防疫ノ注射ヲ行ヒタルモノハ十四日間之ニ繫留スヘシ
 傳染病ニ罹リタル疑アル家畜ハ其ノ疑ナキニ至ル迄之ヲ繫留スヘシ

繋留中家畜カ牛疫、流行性驚口瘡、羊痘ニ罹リタルトキハ之ヲ同一畜舎及檢疫官吏ニ於テ病毒ニ汚染シタル虞アリト認ムル場所ニ繋留シタル牛、緬羊、山羊ハ畜舎又ハ場所ノ消毒完了後二十日間之ヲ繋留スヘシ但シ牛疫ニ感染シタル虞アル家畜以外ノ家畜ニシテ檢疫所ニ隣接セル指定屠場ニ於テ屠殺スルモノハ七日迄短縮スルコトヲ得

繋留中家畜カ炭疽、氣腫疽、鼻疽、假性皮疽、牛ノ傳染性肋膜肺炎、豚虎列刺、豚疫、豚丹毒、加奈陀馬痘、緬羊山羊ノ疥癬ニ罹リタルトキハ之ヲ同一畜舎ニ繋留シタル家畜ハ畜舎ノ消毒完了後十日間之ヲ繋留スヘシ但シ檢疫所ニ隣接シタル指定ノ屠場又ハ場所ニ於テ殺ス場合ハ七日迄短縮スルコトヲ得

繋留中家畜カ禽虎列刺ニ罹リタルトキハ之ヲ同一畜舎ニ繋留シタル家畜ハ畜舎ノ消毒完了後五日間之ヲ繋留スヘシ但シ指定ノ場所ニ於テ殺ス場合ハ三日迄短縮スルコトヲ得

傳染病ニ罹リタル疑アル家畜生シタルトキハ之ト同一場所ニ繋留シタルモノハ其ノ疑ナキニ至ル迄之ヲ繋留スヘシ

前六項ノ規定ハ傳染病ニ罹リタル家畜ト同一船ニ在リタル家畜ヲ繋留場ニ送致シタル場合ノ繋留期間ニ之ヲ準用ス

指定屠場ニ送付スル家畜ハ檢疫證明書交付ノ當日之ヲ屠殺セシムヘシ

第七條 前三條ノ規定ハ家畜傳染病豫防法第二十條第二項ノ規定ニ依リテ行フ檢疫ニ之ヲ準用ス

第八條 檢疫官吏檢疫ヲ終リタルトキハ第三號様式ノ證明書ヲ交付スヘシ但シ消毒ヲ爲シタル獸毛ニ付テハ包裝毎ニ第四號様式ノ證明書ヲ交付スヘシ

第九條 檢疫港所轄ノ地方長官ハ所屬官吏(待遇官吏ヲ含ム)ニ檢疫官吏ヲ命スルコトヲ得

第十條 第三條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附 則
本則ハ家畜傳染病豫防法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十九年農商務省令第十一號ハ之ヲ廢止ス
第一號樣式

黃色
黑色

式樣號二第

第三號對左

年 月 日	九 有 尋 問 ヲ 受 ケ タ ル 者 ノ 氏 名	八 有 無	七 有 無	六 種 類 航 海 中 發 病 及 症 狀 並 之 ニ 對 シ 爲 シ タ ル	五 家 畜 並 其 ノ 屍 體 及 肉 骨 皮 毛 類 塔 載 ノ 地 名 及 年 月 日 並 仕 向 地 名	四 家 畜 並 其 ノ 屍 體 及 肉 骨 皮 毛 ノ 種 類 並 數 量 及 性 狀	三 寄 港 ノ 地 名 及 發 著 ノ 年 月 日	二 發 航 ノ 地 名 及 年 月 日	一 船 籍 船 種 及 船 名
檢疫官官氏名印									

第四號樣式

第 號	消毒證明書	輸(移)入申告者 何 某
一 獸毛ノ種類 一 包裝ノ種類 一 重量 一 塔載地名 一 消毒月日	右ハ家畜傳染病豫防法ニ依リ制規ノ消毒ヲ終了ムシコトヲ證ス 年 月 日	道(府縣) 港 檢疫官官氏名印

式樣號三第

第 號	檢疫證明書	輸(移)入申告者 何 某
品 目	牛 馬 豚 犬 鷺 山 雞 肉 骨 皮 毛 羊 羊 羊 羊 羊 羊 羊 羊 羊 羊	數 量
右ハ何國何港ヨリ到着ニ付家畜傳染病豫防法ニ依リ制規ノ檢疫ヲ施行シ終了セシコトヲ證ス 年 月 日	道(府縣) 港 檢疫官官氏名印	

獸疫調査所血清類賣拂規則

(大正十二年一月十九日農商務省令第三號)

獸疫調査所血清類賣拂規則左ノ通定ム

第一條 獸疫調査所ニ於テ賣拂ヲ爲ス血清類左ノ如シ

炭疽血清

氣腫疽血清

豚虎列刺血清

豚丹毒血清

加奈陀馬痘血清

家禽虎列刺血清

家禽實扶的里血清

腺疫血清

炭疽第一豫防液

炭疽第二豫防液

氣腫疽豫防液

狂犬病豫防液

豚虎列刺豫防液

豚疫豫防液

豚丹毒豫防液

牛ノ傳染性流産豫防液

腺疫豫防液

ツベルクリン

マレイン

氣腫疽沈澱素血清

炭疽沈澱素血清

牛肉沈澱素血清

豚丹毒沈澱素血清

馬肉沈澱素血清

第二條

血清類ノ賣拂價格ハ別ニ之ヲ告示ス

第三條

第一條ノ血清類中炭疽第一豫防液、炭疽第二豫防液、狂犬病豫

防液、豚虎列刺豫防液、豚丹毒豫防液及牛ノ傳染性流産豫防液ハ官公

署、畜産組合又ハ獸醫ニ限り之ヲ賣拂フモノトス

第四條

血清類ノ賣拂ヲ受ケムトスル者ハ種類及數量ヲ記載シ獸疫調査

所長ニ願出ツヘシ

第五條

血清類ノ代金ハ買受申出ノ際獸疫調査所ニ之ヲ納付スヘシ

附 則

本則ハ家畜傳染病豫防法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

家畜傳染病豫防法施行心得

(大正十二年一月二十日農商務省訓令第一號)

廳 府 縣(東京府
ヲ除ク)

家畜傳染病豫防法施行心得左ノ通定ム

- 一 家畜傳染病發生シタルトキハ其ノ終熄スル迄第一號様式ニ依リ毎月十日迄ニ前月ノ狀況ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ但シ牛疫、牛ノ傳染性肋膜炎、流行性驚口瘡、羊痘及豚虎列刺ニ付テハ月表ノ外特種ノ狀況ヲ生シタルトキハ其ノ都度之ヲ報告スヘシ
- 二 家畜傳染病豫防法第七條ノ規定ニ依リ免疫血清又ハ豫防液ノ注射ヲ行ヒタルトキハ注射完了後其ノ成績ヲ調査シ遲滞ナク第二號様式又ハ第三號様式ニ依リ其ノ狀況ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ
- 三 免疫血清、豫防液又ハ診斷液ノ交付ヲ受ケタルトキハ毎年四月三十

日迄ニ第四號様式ニ依リ前年度ニ於ケル其ノ受拂ヲ獸疫調査所長ニ報告スヘシ

四 家畜傳染病豫防法第十三條ノ規定ニ依ル届出ハ一年分ヲ取纏メ第五號様式ニ依リ翌年一月末日迄ニ農商務大臣ニ報告スヘシ

五 傳染病ニ罹リ若ハ罹リタル疑アリ又ハ牛疫若ハ狂犬病ニ感染シタル虞アル家畜ヲ殺サムトスル場合ハ其ノ所在ノ場所ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ特別ノ事由ニ依リ焼却又ハ埋却ヲ爲ス場所ニ於テ殺ス場合又ハ化製場若ハ屠場ニ於テ殺ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

六 家畜傳染病豫防法第八條第二項ノ規定ニ依ル化製ハ消毒裝置其ノ他病毒ノ散蔓ヲ防止スルニ足ルヘキ設備ヲ有スル化製場ニ於テ之ヲ爲サシムヘシ

七 家畜傳染病豫防法第二十條ノ檢疫ヲ行ヒタルトキハ毎月十日迄ニ前月中ノ檢疫成績ヲ第六號様式ニ依リ農商務大臣ニ報告スヘシ

第一號樣式

甲

家畜傳染病調査表 (何年何月分)

廳府縣名

病名	畜類	頭數	斃死	殺頭數	快復	摘	要
備考	發病地、流行地方、系統、病勢其ノ他參考トナルヘキ事項						
累計							

(注意)

- (一) 斃死、殺及快復頭數ハ既ニ其ノ家畜ノ發病報告ヲ爲シタルモノニ付テハ朱書ス
 (二) 牛疫感染ノ虞アル家畜ニシテ殺シタルモノニ付テモ之ヲ本表中ニ加ヘ且ツ病名
 (三) 欄ニ其ノ旨記入スヘシ
 累計ハ病名、畜類別ニヨリ同年一月以降ノ頭數ヲ記載スヘシ以下之ニ倣フ

乙

檢疫中ニ於ケル家畜傳染病調査表 (何年何月分)

檢疫港名

船名	入港 月日	病名	畜類	塔載 地名	發病 頭數	斃死 頭數	殺頭數	快復 頭數	摘	要
備考	系統、病勢其ノ他參考トナルヘキ事項									
累計										
計										

(注意)

甲ニ同シ

第二號樣式

甲

何令免疫血清注射成績表

(注射施行、始期、終期、年月日)

廳府縣名

備考	注射の畜類		注射の頭數		注射後		摘	要
	目的	畜類	頭數	發病	斃死	殺頭數		
				頭數	頭數	頭數		
				頭數	頭數	頭數		
				頭數	頭數	頭數		
注射ノ爲生シタル事故ノ狀況								

(注意)

使用シタル血清ニ付テハ其ノ製造所ノ官公私別ニ大體ノ歩合ヲ備考欄ニ記載ス

シハ

乙

検査中ニ於ケル何令免疾血清注射成績表 (同上)

檢疫港名

備考	甲ニ同シ	塔載	注射	注 射 後	摘	要			
		地名	目的				畜類		
		頭數	發病 頭數				斃死 頭數	殺頭數	快復 頭數
		頭數	斃死 頭數				殺頭數	快復 頭數	
		頭數	斃死 頭數				殺頭數	快復 頭數	

(注意) 甲ニ同シ

74

策三歸蘇左

第三號様式

甲

何々豫防液注射成績表

(注射施行ノ始期 年月日)
(同 終期 年月日)

廳府縣名

備考	畜類	注射頭數		注射後				摘	要
		注一回	注二回	頭發病數	頭斃死數	殺頭數	頭快復數		
備考	注射反應ノ概況、注射ノ爲生シタル事故ノ狀況								

(注意) 使用シタル豫防液ニ付テハ其ノ製造所ノ官公私別ニ大體ノ歩合ヲ備考欄ニ記載スヘシ

乙

檢疫中ニ於ケル何々豫防液注射成績表

(同上)

檢疫港名

備考	塔載地名	畜類	注射頭數		注射後				摘	要
			注一回	注二回	頭發病數	頭斃死數	殺頭數	頭快復數		
備考	甲エ同シ									

(注意) 甲ニ同シ

第四號樣式

血清類受拂表 (何年度分) 廳府縣名

種	類	前年度ヨリ 繰越數量 c.c.	受入數量 c.c.	應用數量 c.c.	廢棄數量 c.c.	翌年度ニ繰越 數量 c.c.
備考	廢棄事由其ノ他參考トナルヘキ事項					

第五號樣式

家畜斃死表 (何年分)

廳府縣名

備	計	其ノ他	普通病	流行病	傳染性病	牛	馬	綿羊	山羊	豚	摘	要
備考	衛生狀態、斃死多キ疾病ニ付テハ其ノ原因其ノ他參考トナルヘキ事項											

(注意)

傳染性病及流行病ニ付テハ病名ノ分明セルモノハ其ノ病名別頭數ヲ各摘要欄ニ記入スヘシ

本表中ニハ法律ニ規定シタル傳染病ノ爲斃死シタルモノヲ含マス

乙

檢疫所ニ於ケル獸毛消毒成績表 (何年何月分)

檢疫港名

種	類	數	量	消毒方法	摘	要
備	考	計	計	消毒施行狀況其ノ他參考トナルヘキ事項		

家畜粉菜汚穢出ニ關スル

第六號樣式

甲

檢疫成績表 (何年何月分)

檢疫港名

備	考	累	計	名地載塔	名地向仕	頭	數	肉	斤	毛	數	品	摘	要
				牛	馬	羊	類	肉	毛	毛	毛	毛		
				豚	犬	鷄	鷄	豚	豚	豚	豚	豚		
				類	ノ	畜	其他	肉	羊	羊	羊	羊		
				肉	牛	羊	類	肉	豚	豚	豚	豚		
				肉	豚	豚	豚	肉	豚	豚	豚	豚		
				骨	皮	毛	毛	毛	毛	毛	毛	毛		
				毛	羊	羊	羊	毛	毛	毛	毛	毛		
				毛	馬	豚	豚	毛	毛	毛	毛	毛		
				毛	豚	豚	豚	毛	毛	毛	毛	毛		
				毛	豚	豚	豚	毛	毛	毛	毛	毛		
				品	ノ	物	其他	品	品	品	品	品		

(注意) 本表ニハ其ノ月檢疫終了解放シタルモノヲ記入スヘシ

備考 檢疫中ニ於ケル事故ノ狀況、其ノ月收容ノ畜類別頭數其ノ他參考トナルヘキ事項

家畜傳染病豫防ニ關スル消毒方法

(大正十二年一月二十日農商務省告示第九號)

家畜傳染病豫防法施行規則第九條ノ規定ニ依リ消毒ノ方法左ノ通定ム

第一 家畜傳染病豫防ノ爲施行スル消毒ノ方法ハ左ノ四種トス

- 一 蒸氣消毒
- 二 煮沸消毒
- 三 藥物消毒
- 四 醱酵消毒
- 第二 蒸氣消毒ハ消毒ノ目的物ヲ一時間以上攝氏百度以上ノ濕熱ニ觸レシムヘシ

被服、毛布、毛、器具等ノ消毒ニ適ス

第三 煮沸消毒ハ消毒ノ目的物ヲ水中ニ浸シ沸騰後一時間以上煮沸スヘシ

第二ニ掲クルモノノ外肉、骨、角、蹄、飼料等ノ消毒ニ適ス

第四 藥物消毒ニ用キル藥劑及其ノ用法ハ左ノ如シ

一 煨製石灰末

用ニ臨ミ煨製石灰ニ少量ノ水ヲ加ヘ粉末ト爲シ之ヲ製スヘシ

畜舎ノ床、糞便、厩肥、糞尿溜、汚水溝、濕潤ナル土床等ノ消毒ニ適ス

一 石灰乳(十倍) (煨製石灰一分)

水(九分)

用ニ臨ミ煨製石灰ニ水ヲ徐々ニ加ヘ攪拌シテ之ヲ製スヘシ

畜舎ノ隔壁、隔木若ハ床又ハ欄棚其ノ他病毒ニ汚染セル場所ノ消毒ニ適ス

一 クロール石灰

畜舎ノ床、井水、用水、汚水溝等ノ消毒ニ適ス

一 クロール石灰水(二十倍)(クロール石灰五分
水九十五分)

用ニ臨ミクロール石灰ニ水ヲ加ヘ攪拌シテ之ヲ製シ其ノ上清ヲ用
ウヘシ

用法ハ石灰乳ニ同シ

一 石炭酸水(二十倍)(防疫用石炭酸五分鹽酸一分又ハ食
鹽三分水九十四分又ハ九十二分)

加熱熔融セシメタル防疫用石炭酸ヲ水ニ加ヘ攪拌シタル後鹽酸又

ハ食鹽ヲ加ヘテ之ヲ製スヘシ

手足、畜舎、屍體、欄棚、器具機械、革具類等ノ消毒ニ適ス但シ
手足等ノ消毒ニハ石炭酸水ヲ更ニ水ヲ以テ二倍ニ稀釋シタルモノ
ヲ用ウヘシ

一 昇汞水(千倍)(昇汞一分鹽酸十分
水九百八十九分)

鹽酸ヲ加ヘタル少量ノ水ニ昇汞ヲ溶解シタル後水ヲ加ヘテ之ヲ製
スヘシ

昇汞錠(一錠中昇汞〇五
グラムヲ含ム)ヲ用ウル場合ハ其ノ一錠ヲ五百立方センチ
メートルノ水ヲ溶解シテ之ヲ製スヘシ

手足、畜舎、畜體、器具機械ノ消毒ニハ之ヲ用ウベカラス

一 フォルムアルデヒド

室内、被服、毛布、畜舎、骨、毛、角、蹄、革具類、貴重ナル器
具機械等ノ消毒ニ適ス但シ密閉シ得サル室内ノ消毒ニハ適セス

フォルムアルデヒドヲ以テ消毒スルニハ室内又ハ消毒用器ノ容
積百立方尺ニ付フォルマリソ四十立方センチメートル以上ヲ噴霧
若ハ蒸發セシメ又ハフォルムアルデヒド十五グラム以上ヲ發生
セシメ同時ニ百立方センチメートル以上ノ水ヲ蒸發セシムルノ比
例ヲ以テ處置シタル後七時間以上密閉シ置クヘシ

フオルムアルデヒドヲ以テ毛束、被服、毛布又ハ之ニ類似ノ物品ヲ其ノ内部ニ至ル迄消毒スル場合ハ真空裝置ニ依ルヘシ此ノ場合ニ於ケル消毒時間ハ裝置及物品ノ種類ニ依リ之ヲ定ムヘシ

一 フオルマリン水(フオルマリン一分、水三十四分)
畜舎、畜體、屍體、器具機械、骨、毛、角、蹄、革具類等ノ消毒ニ適ス

一 クレゾール水(クレゾール石鹼液三分、水四十七分)
クレゾール石鹼液ヲ水ニ溶解シテ之ヲ製スヘシ

手足、被服、畜舎、畜體、欄棚、器具機械、革具類等ノ消毒ニ適ス

一 クレゾール硫酸溶液(粗製クレゾール二分、粗製硫酸一分、水九十七分)
粗製クレゾールニ粗製硫酸ヲ混和振盪シ二十四時間以上ヲ經過セ
ル後水ヲ加ヘテ之ヲ製スヘシ

糞尿溜、汚水溝等ノ消毒ニ適ス

一 クレオリン水、クレシン水(クレオリン、クレシン三分、水九十七分)
石炭酸水ニ代用スルコトヲ得

一 硫黃石灰水(昇華硫黃三分、煨製石灰一分、水四十分)
煨製石灰一分ヲ水四十分ニ溶解シ昇華硫黃三分ヲ加ヘ蒸發水分ヲ補ヒツツ二時間攪拌煮沸シタル後水百分ヲ加ヘ之ヲ製シ其ノ上清ヲ用ウヘシ

藥浴ニ適ス

一 毒酸食鹽水(鹽酸二分、食鹽十分、水八十八分)
皮ノ消ニ適ス

一 粗製鹽酸、粗製硫酸
糞尿溜、汚水溝等ノ消毒ニ適ス

第五 醗酵消毒ハ幅四、五尺深サ五、六寸長サ適宜ノ土溝ヲ造リ之ヲ病

毒ニ汚染セサル敷藁、厩肥等ニテ埋メ其ノ上ニ消毒スヘキ糞便、敷藁、厩肥等ヲ四、五尺ノ高サニ堆積シ其ノ表面ハ病毒ニ汚染セサル筈、藁敷藁、厩肥等ヲ以テ適當ノ厚サニ之ヲ覆ヒ其ノ上ニ土ヲ覆ヒ少クトモ二週間放置スヘシ

牛糞、豚糞ノ消毒ニ在リテハ醗酵ヲ充分ナラシムル爲適宜ノ藁類ヲ混スヘシ

第六 消毒方法ノ應用

一 畜舎ノ土床ハ深サ一尺以上掘起搬出シタル後煨製石灰末又ハクロール石灰ヲ撒布シ新鮮ノ土ヲ入レ搬出シタル土ハ燒却又ハ埋却スヘシ但シ牛ノ傳染性流産、馬、山羊ノ疥癬、家禽虎列刺、加奈陀馬痘、假性皮疽ノ場合ニ在リテハ土床ヲ掘起セスシテ煨製石灰末、クロール石灰、フォルマリン水、クレゾール水ヲ充分ニ撒布シ消毒スルコトヲ得

一 著シク汚物ノ固著セル畜舎又ハ欄柵ノ消毒ハ豫メ熱油汁(粗製加曹達一分水二十分又ハ新製ノ木灰一分水五分ヲ煮沸シテ製ス)又ハ熱湯ヲ以テ洗滌シタル後之行フヘシ

一 畜體ノ消毒ハ昇汞水、フォルマリン水又ハクレゾール水ヲ以テ濕シタル布片ヲ以テ清拭シ特ニ汚物ノ附著セル部分ハ前記消毒藥液ヲ以テ洗滌スヘシ

一 屍體又ハ物品ヲ運搬セムトスルトキハ昇汞水、石炭酸水、フォルマリン水又ハクレゾール水ニ濕セル布片又ハ綿類ヲ以テ病毒ヲ漏ラス虞アル天然孔其ノ他ノ個所ヲ塞キ昇汞水、石炭酸水、フォルマリン水又ハクレゾール水ニ濕シタル筈、菰類ヲ以テ全體ヲ包裹スヘシ

一 病畜牽付途中又ハ屍體運搬中ニ於テ糞尿其ノ他汚物ヲ漏ラシタル時ハ病毒ヲ含有セサルモノヲ除クノ外之ヲ除去シ其ノ場所ニ昇

汞水、石炭酸水又ハクレゾール硫酸水ヲ充分撒布シ除去シタル汚物ハ適當ノ場所ニ於テ之ヲ燒却、埋却又ハ消毒スヘシ

一 糞尿溜及汚水溝ハ煨製石灰末、クロール石灰、クレゾール水、クレゾール硫酸水、粗製鹽酸又ハ粗製硫酸ヲ投入攪拌シ其ノ汚物ヲ浚渫シタル後更ニ石灰乳、クレゾール水又ハクレゾール硫酸水ヲ以テ消毒スヘシ浚渫シ能ハサルトキハ覆ヲ爲シ五日間以上放置スヘシ浚渫シタル汚物ハ深ク埋却スヘシ

一 皮ハ鹽酸食鹽水中ニ二日間以上浸漬スヘシ

一 茅胞性病毒ニ對シテハ次ノ消毒藥ノ一ヲ用ウヘシ

昇汞水 石炭酸水(鹽酸ヲ加ヘタルモノ)

クレゾール硫酸水 フォルマリン水

クロール石灰水 粗製鹽酸

粗製硫酸 鹽酸食鹽水

獸疫調査所ニ於テ賣拂ヲ爲ス血清類ノ價格

獸疫調査所ニ於テ賣拂ヲ爲ス血清類ノ價格左ノ通定ム

大正十年四月農商務省告示第七十五號及同年七月農商務省告示第七十七號ハ之ヲ廢止ス

(大正十二年一月二十日農商務省告示第十號)

種	種	價格(送料ヲ要セス)	一壺ノ容量種類	種	種	價格(送料ヲ要セス)	一壺ノ容量種類
炭疽血清	100 c.c. ニ付	100	豚丹毒血清	300	炭疽第一豫防疫液	100	10
氣腫血清	300	100	加奈陀馬痘血清	300		100	
豚虎列刺血清	100	100	家禽虎列刺血清	100		100	
			家禽實扶的里血清	100		100	
			腺疫血清	300		100	
				300		100	

炭疽第二豫防液	三・〇〇	一	二〇五
氣腫疽豫防液	一・〇〇	一〇〇	一
狂犬病豫防液	七・五〇	一〇〇	一
豚虎列刺豫防液	一・〇〇	一〇〇	一
豚疫豫防液	一・六〇	一〇〇	一
豚丹毒豫防液	二・〇〇	一〇〇	一
牛ノ傳染性流産豫防液	一・五〇	一〇〇	一
腺疫豫防液	一・五〇	一〇〇	一
ツベルクリン	六・〇〇	二〇五	一
マレイン	二・〇〇	一〇五	一
炭疽沈澱素血清	五・〇〇	一〇〇	一
氣腫疽沈澱素血清	五・〇〇	一〇〇	一
豚丹毒沈澱素血清	五・〇〇	一〇〇	一
牛肉沈澱素血清	五・〇〇	一〇〇	一
馬肉沈澱素血清	五・〇〇	一〇〇	一

(參照)
大正十年四月二十八日農商務省告示第七十五號ハ獸疫調査所ニ於テ大正十年度ヨリ新ニ製造配付スル豫防接種液ノ件及同七月十六日同第百七十七號ハ〇疫調査所ニ於テ製造スル血清類賣拂價格ニ關スル件ナリ

本社發行書籍目錄

出野信慶著

改正所得稅法解説

三六版にして紙數百九十頁頗る美本
定價 金八拾錢
郵稅 金四錢

出野信慶著

改正衆議院議員選舉法要義

四六版三百八十頁
函入總クロース文字入美本
定價 金壹圓五拾錢
郵稅 金八錢

出野信慶著

改正市制町村制解説

四六版四百二十頁
頗る美本
定價 金壹圓參拾錢
送料 金六錢